

## - 洗剤の動き、防しわ性、ドレープ性の簡易実験法 -

愛知教育大 日下部信幸

目的 家庭科は実験実習を通じた実践的体験的な学習教科でありながら、被服領域ではあまり実験が行われていない。この理由は、時間がない、設備が不十分である、手間がかかるなどであり、また、実験のための備品が、小・中学校にはほとんど無く、高校にも十分備わっていないことが挙げられる。このような学校現場の実状からすれば、まず、身近な材料で、安く、簡単に作れる実験教具を工夫し、短時間で学習できる実験方法を確立しなければならない。本研究では、学校現場で希望の高い洗剤の動き、防しわ性、ドレープ性の実験方法について検討した。

方法 愛知県下の中学・高校家庭科教師を対象に被服実験に関するアンケート調査を行い、学校現場の実状を把握する。洗剤の動きでは身近な材料を使った観察的な方法を、防しわ性とドレープ性は簡易測定器の開発を行う。

結果 洗剤の動きでは分散作用の実験に用いるススは布(ポリエステル・綿混紡)やロウソクを燃やして作り、乳化作用の実験に用いる油性染料は油絵の具を用いると便利である。防しわ性とドレープ性は、図1、2に示すような、身近な材料で簡単に作れる簡易測定器を用いた実験方法を提案した。

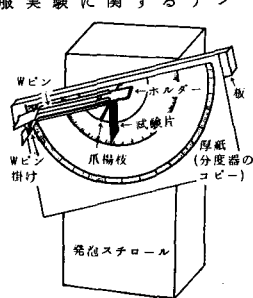


図1 簡易モンサント法

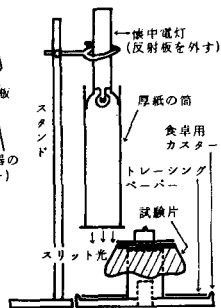


図2 簡易ドレープテスター